

## 資料 20 保健センター健診時の条件

### 1. 活動ホール(乳幼児健診)

#### (1)健診のながれ

##### ①受付と問診

来所した順に、検温と体調確認を実施。

保健師(1名)が来所者一人ずつ、記入済の問診票や母子健康手帳等を受け取りながら、問診表の内容を確認。医師や歯科医師に診察を希望する内容や相談したいことを聴取する。

3歳児健診に関しては、尿検査(自宅で採取済のスピッツ)を預かり、受付番号と同じ番号を検体に附番する。

保健師が来所者から聞き取った内容を、問診票に加筆する。

加筆した問診票等と母子カードを突合し、母子健康手帳と併せて、番号付きクリップボード(受付番号と同じ番号)に挟む。母子健康手帳と母子カルテには、日付印と診察医師の押印をする。

処理の終わったクリップボードを、身体計測のブースに移動する。

なお、3歳児健診に関しては、隣接するスペースに、屈折検査機器による視能検査ができるスペース(1-2畳程度)を確保する(半暗室が必要)。

##### ②更衣

ベットの空き状況をみながら、受付順に更衣室に来所者が移動する。

順番待ちの方は、待合室で待機となり、順番が来たら更衣室から呼び出しを行う。

児の計測は、おむつ又は下着のみで計測するため準備を行う。

順番に計測に呼ばれるまで、ベッドで待機をする。

##### ③身体計測

更衣室から1組ずつ順番に呼び出しを行う。

順番に、看護師(1~2名)が来所者に母子カードと母子健康手帳を見ながら、計測の取り違えないよう確認する。確認でき次第、身長、体重、胸囲、頭囲<sup>※1</sup>を測定し、記録者(1名)が母子健康手帳及び母子カードに記録を記載する。

乳児の計測時は、児の落下がないようにマット等を引いた上に設置する。

感染対策を講じるため、消毒やディスポシーツを用い、使用ごとに廃棄する。

計測が終了したら、そのまま内科検診のスペースの待機スペースで、内科診察に呼ばれるのを待つ。

記録を記載した母子カードと母子健康手帳を挟んだクリップボードは、内科診察室の待機場所に移動する。

#### ※1 乳幼児健診の計測方法等について

4か月児健診	計測場所)身長・体重・胸囲・頭囲	計測方法)臥位による計測
10か月児健診	計測場所)身長・体重・胸囲・頭囲	計測方法)臥位による計測
1歳6か月児健診	計測場所)身長・体重・胸囲・頭囲	計測方法)体重は立位、身長他は臥位
2歳児歯科健診	計測場所)身長・体重	計測方法)立位による計測
3歳児健診	計測場所)身長・体重・頭囲	計測方法)立位による計測

#### ④内科診察

待っている来所者(最大4組)を受付順に1組ずつ呼び出し、医師(1名~2名)と看護師(1名)により診察・発達の確認、来所者からの相談などを行う。

母子カードに医師が診察結果を記録する。必要時、紹介状を発行する。

医師は診察ごとに、手指消毒や手洗いをを行い、感染対策を行う。

診察の際も、感染対策を講じるため、消毒やディスポシーツを用い、使用ごとに廃棄する。

診察が終了した来所者は、一旦更衣室に戻り、着衣を行う。

着衣終了後に、歯科診察室に移動する。

記録を記載した母子カードと母子健康手帳を挟んだクリップボードは、歯科診察室の待機場所に移動する。

#### ⑤歯科診察

待っている来所者(最大4組)を受付順に1組ずつ呼び出し、歯科医師(1名)と歯科衛生士(1名)により診察及び来所者からの相談などを受ける。

診察の際も感染対策を講じるため、消毒やディスポシーツを用い、使用ごとに廃棄する。

医師は診察ごとに、グローブを交換、かつ手指消毒や手洗いをを行い、感染対策を行う。

診察結果は、歯科衛生士が記録を行う。

診察が終了したら歯磨き指導室に移動する。

記録を記載した母子カードと母子健康手帳を挟んだクリップボードは、歯科指導室に移動する。

#### ⑥歯科指導

待っている来所者(最大4組)を受付順に呼び出し、1対1で歯科指導を行う。最大で2名の歯科衛生士が対応可能なため、ブースを2か所設置し、歯科清掃の手技指導(フッ素やプラークテストの使用も想定している)、来所者の相談を想定している。

指導の際に感染対策を講じるため、消毒やディスポシーツを用い、使用ごとに廃棄する。

記録を記載した母子カードと母子健康手帳を挟んだクリップボードは、相談室に移動する。

#### ⑦相談室

受付順番に相談室に呼び出し、保健師と来所者1組ずつ相談を行う。

健診結果の説明、来所者からの相談に対応する。相談内容が、児の発達や家族に関する内

容など多岐かつ、プライバシーに配慮すべき内容になる場合もある。

相談終了後、次回健診の案内やパンフレット等と母子健康手帳を返し終了する。

母子カードに相談内容を記録する。

## (2)健診時における要求水準

- ・ 上記の健診の流れがなるべく一方通行になるよう、来所者が混線なく移動できるような配置を行うこと(相談室への誘導を含む)。  
特に、相談室まで円滑に移動できるような仕組みがあるとよい。
- ・ 来所者が乳幼児健診対象児童以外の兄弟や家族を連れてくることもあることから、待機スペースに余裕をもたせること。
- ・ 健診会場を各ブースで仕切らないものの、内科・歯科診察、歯科指導場面においては、待っている者から診察の場面が見えたりなどしないよう、アコーディオンスクリーン※<sup>2</sup>等を使用しプライバシーに配慮すること。

### ※2 アコーディオンスクリーンの仕様

- ・ 倒れにくく、衛生倉庫からの移動が困難でないもの
- ・ スクリーン部分が透けないもの
- ・ スクリーン部分が防汚、防炎及び、吸音加工されているもの
- ・ 折りたたんでコンパクトに収納できるもの
- ・ 複数連結し利用することで、場面を仕切れるようにできるもの。またそれが安易にできること。

- ・ 壁面収納内に、保健事業(特に乳幼児健診)に係る衛生材料や予備の資材、器具などを常時置けるスペースを設けること(突発的な事案(例;健診中にケガ・嘔吐等のトラブルシューティング用など)に対応できるような備品はおいておきたい)。
- ・ 相談室にも相談待機中の方を呼び出しできる機能をつけること。
- ・ 医師や歯科医師の診察用のテーブルを別途設けず、活動室に設置される会議用テーブルを活用する。

(3)健診時模式図

